

世界の写真 京に集結

京町家など11か所で作品展

来月12日まで

京都が誇る建築物11か所を会場に、国内外の写真作品を展示する国際写真祭「KYOTOGRAPHIE」(京都グラフィー)が、中京区の京町家「嶋臺ギャラリー」などで開かれている。5月12日まで。



京都文化博物館で展示中のアルバート・ワトソン「ミック・ジャガー」(1992年)



ベロニカ・ゲンシツカさんの不思議な作品に見入る来場者たち(中京区で)

7回目のテーマは共振や共鳴を意味する「VIB E」。照明家の中西祐介さんとフランス人写真家ルシール・レイボーズさんが創設し、2013年から6回目までで56万人が訪れた。

同ギャラリーでは、ポランド出身のベロニカ・ゲンシツカさんの作品を展示。1950、60年代のアメリカの日常生活を写した写真に加工を施し、当時の価値観を皮肉を込めユーモラスに描き出す。近くの京都文化博物館では、音楽家・坂本龍一さんら著名人の撮影を多数手がけたアルバート・ワトソンさんの厳選作を紹介。東山区のギャラリー「ASPHODEL」では、厳しい自然に向き合うブドウ栽培農家らに着想を得たビック・ムニースさんのシリーズ作が並ぶ。

京田辺市から訪れた保育士、吉田麻衣さん(25)は、街を散策しながら面白い作品に出会える「喜んでいい。入場料は会場によって無料。1100円(学生割引ありで、全会場入場のパス

ポートも販売)。中学生以下無料。
若手写真家らを発掘する公募展「K.G.(プラス)」(08)。

磯崎さん「きらめき大賞」



門川市長から表彰状を贈る磯崎さん(右、中京)

京都市プリツカー建

京都市は18日、「建築界のノーベル賞」といわれる

米国のプリツカー建築賞に選ばれた建築家の磯崎新さん(87)に「きらめき大賞」を贈った。

文化芸術の分野で活躍した個人や団体を表彰する市の文化芸術表彰制度の一つで、2013年度に創設。建築家としては同じくプリツカー建築賞を受賞した坂茂さんに続き、2人目となった。

大分市出身。ポスト・モダン建築の旗手として先鋭的な作品を数々発表し、世界的に活躍する磯崎さんは、平安建都1200年を記念し、京都市が1995年に建設した京都コンサートホール(左京区)も設計

京産大
即位や

5月1日
だ講演会「
儀式と祭祀
都産業大学